

これでよいのか日本の食と農

食の安全から生協・行政のあり方を考える

日 時： 2009年1月31日(土)午後1時15分～4時50分

会 場： 東京・文京シビックセンター 4階シルバーホール

報 告： *いまこそ食糧自給の課題を*

食品の安全と信頼を担保するために

宮村光重

(食糧問題研究委員会委員長、
日本女子大学名誉教授)

食の安全問題と生協の課題

西村一郎

(生協総合研究所研究員)

1ジャーナリストからみた食の安全問題

岩垂 弘

(ジャーナリスト)

食品行政に何を求めるか

神山美智子

(弁護士、食の安全・監視市民委員会代表)

参加費： 500円 (資料代ふくむ、受付けにて)

申込先： 日本科学者会議 (JSA) TEL03 - 3812 - 1472 FAX3813 - 2363

資料作りのため、名前と人数を連絡ください。

JSA 会員にかぎらず、大勢のご参加で、一緒に考えましょう

【会場案内】

文京シビックセンター

4階シルバーホール

(文京区春日 1-16-21)

交通機関:

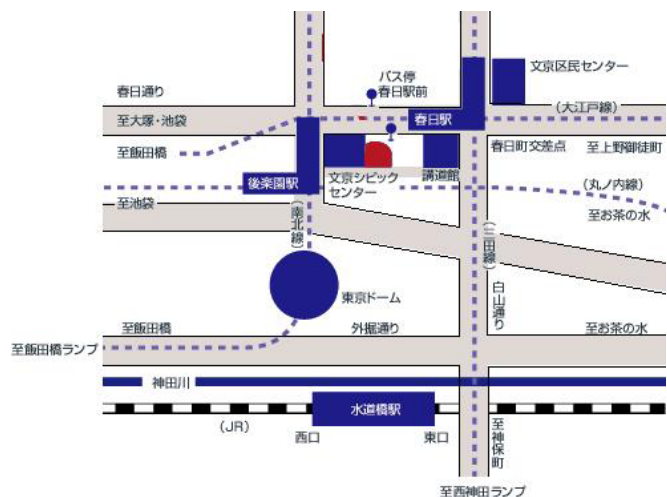
東京メトロ南北線 後楽園駅 徒歩 0分

東京メトロ丸ノ内線 後楽園駅 徒歩 1分

都営地下鉄三田線 春日駅 徒歩 1分

都営地下鉄大江戸線 春日駅 徒歩 1分

JR中央線 水道橋駅 徒歩 8分



日本科学者会議 主催 食と農のシンポジウム 開催趣旨
(食糧問題研究委員会)

2009年1月31日

テーマ これではよいのか日本の食と農
食の安全から生協・行政のあり方を考える

2008年1月末に、中国製輸入冷凍ギョーザによる中毒事件が表沙汰になり、生協をはじめ日本中が大騒動になりました。身近な食品を安心して食べられない不安に、多くの国民が愕然としました。その原因は、いまだに曖昧なままです。食をめぐる不安は、納まるどころか、重ねて拡がり、深刻な様相を呈しています。

WTO(世界貿易機関)による MA(ミニマムアクセス)輸入米(一部)が危険な汚染状態なのに、日本全国に流通し、老人施設や小中学校の給食、菓子や酒などに使われ、もうお腹に入ってしまったという始末です。政府・行政のずさんな管理とともに、儲けのためならなんでもやる業者の存在が明らかになりました。

輸入食糧の安全性は、中国産にかぎらず不安ですが、またしても中国の乳業生産で有害物質メラミンが使用され、パン・菓子の原料として輸入されていたことが分かりました。

海外産なのに国内産と偽るケースが、あとをたちません。キャセイ食品の輸入冷凍野菜では、6~7年まえから中国産を国産としていました。ほかにも、蒲焼うなぎや和菓子原料などでも、偽装と異常が見つかっています。さらに、輸入とは直接関係ないものの、国内大手食品メーカー製品で、食の安全と信頼を裏切る事例が続いています。伊藤ハム(ウィンナー)、日清食品(カップラーメン)など、身近な食品の事故が起こり、この先が不安です。

今回のシンポジウムでは、こうした食の安全と信頼を脅かす事態が、根本的にどうして起きてくるのか？ しかもこれらにほとんど生活協同組合が係わっていることをどう考えたらよいのか？ いまこそ日本農業再生と食糧自給に転換すべきではないか？ これらの論点を若干の側面から立ち入って追究する報告が行われます。

参加者みなさんとご一緒に考え、意見を交流しましょう。